

2012年10月8日作成

サイエンスアゴラ 2012 参加企画シンポジウム
「共に語ろう、東日本大震災後の海洋科学研究と教育」

- 日 時：2012年11月11日（日）10時15分～12時
場 所：産業技術総合研究所臨海副都心センター別館 11階会議室1
新交通ゆりかもめ「テレコムセンター駅」下車徒歩約5分
<http://unit.aist.go.jp/waterfront/access/index.html>
主 催：日本海洋学会教育問題研究会
<http://coast14.ees.hokudai.ac.jp/osj/index.html>
お申込み：事前登録不要。ただし、会場が満席になりましたら入場できません。

趣 旨

東日本大震災後の安心・安全な国民生活の実現には科学技術の貢献が不可欠である。しかし、東日本大震災とその直後の原発事故の発生を契機として、科学者の社会的役割、科学者の情報発信、科学者と国・企業の関係、クライシスコミュニケーション、リスクコミュニケーション、科学教育などについての議論が各所で行われている。このような東日本大震災後の社会における海洋科学の教育・研究の在り方について、日本海洋学会会員が海洋科学を専門としない人々と直接語り合う場として、本シンポジウムを開催する。

概 要

初めに、日本海洋学会による東日本大震災に対応した調査研究広報活動、東日本大震災復興のために始まった「東北マリンサイエンス拠点形成事業」などの研究プロジェクトの概要と、東日本大震災後の大学における海洋教育で使われる全学部1年生向け教科書「海はめぐる（2012年3月刊行）」と卒業論文指導の実践例（サンマのセシウム蓄積モデル）を3名の海洋学会会員が紹介する。その後のパネルディスカッションでは、日本海洋学会会員と海洋科学を専門としない研究者がフロアの一般参加者とともに相互理解を深めるための意見交換を行なう。

事前のご質問、ご意見を以下のサイトで受け付けています。

http://jfnaoki.s112.xrea.com/sci_agora/clipmail.html

サイエンスアゴラ2012テーマ

見つけよう あなたと「科学」のおつきあい

<http://www.scienceagora.org/scienceagora/agora2012/index.html>

プログラム

- 10:15～10:20 開会挨拶・趣旨説明 市川 洋（海洋研究開発機構）
- 10:20～10:35 講演 花輪 公雄（東北大学）
東日本大震災対応WGの活動とこれから
- 10:35～10:50 講演 津田 敦（東京大学）
東日本大震災復興のための海洋科学研究
－「東北マリンサイエンス拠点形成事業」の概要－
- 10:50～11:05 講演 岸 道郎（北海道大学）
東日本大震災後の大学における海洋教育
－教科書作りと卒業論文指導－
- 11:05～12:00 パネルディスカッション
東日本大震災後の社会における海洋科学の教育・研究の在り方

パネリスト（50音順）

- 岸 道郎（北海道大学）
高梨 直紘（東京大学、天文学普及プロジェクト天プラ）
津田 敦（東京大学）
花輪 公雄（東北大学）
横山 雅俊（NPO法人市民科学研究室）

コーディネーター

- 市川 洋（海洋研究開発機構）

登壇者プロフィール（50音順）

岸 道郎 1949年9月東京都生まれ。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。農学博士。東京大学海洋研究所助手を経て、1997年から北海道大学水産学部（後に改組で大学院水産科学研究院）教授。専門は海洋の生態系モデリング。日本海洋学会教育問題研究会会員。

高梨直紘 1979年広島県生まれ。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。理学博士。2008年国立天文台広報普及員、研究員を経て、2009年より東京大学生産技術研究所特任助教(エグゼクティブ・マネジメント・プログラム担当)。天文学普及プロジェクト「天プラ」代表、天文教育普及研究会運営委員。専門は天文学および天文学分野のコミュニケーション活動。

津田 敦 1958年東京都生まれ。東京大学大学院農学研究科博士課程修了。農学博士。1988年東京大学海洋研究所助手、その後北海道区水産研究所室長、東京大学大気海洋研究所准教授を経て、2011年教授。専門は生物海洋学、特に動物プランクトンの生活史と物質循環に関する研究。2011年4月、日本海洋学会副会長に就任。

花輪公雄 1952年山形県生まれ。東北大学大学院理学研究科博士課程修了。理学博士。1981年東北大学助手、その後講師、助教授を経て、1994年教授。専門は海洋物理学、特に大規模大気海洋相互作用の研究。2011年4月、日本海洋学会長に就任。

横山雅俊 1971年神奈川県生まれ。東京大学薬学系研究科博士課程満期退学。在学中に研究生活の傍ら、今で言う科学コミュニケーション活動を開始。現在も、薬剤師業と共に細々と研究生活を続けつつ、科学技術政策や高等教育問題に関する調査、研究等を継続。前回、前々回のサイエンスアゴラ企画委員。NPO法人市民科学研究室理事。専門は生物物理学。

市川 洋 1949年5月北海道生まれ。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。理学博士。1979年鹿児島大学水産学部助手。同教授を経て、2005年から海洋研究開発機構に勤務。主な研究題目：黒潮の変動機構および大気海洋相互作用に関する観測研究。日本海洋学会教育問題研究会会員。